

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800196		
法人名	大和ケアサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム 花うさぎ千早		
所在地	〒813-0044 福岡県福岡市東区千早4丁目13番27号 Tel. 092-674-1800		
自己評価作成日	令和06年01月30日	評価結果確定日	令和06年04月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel. 093-582-0294		
訪問調査日	令和06年03月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駅からは徒歩圏内と利便性の良い複合型の福祉施設で、目の前には公園があり、ダイニングの大きな窓からは、公園が一望出来ます。コロナも緩和され温暖な日などは散歩や行事を行っています。ユニット間には交流スペースがあり入居者様が自由に往来でき面会時にはソファに腰かけお話もされております。食事は入居者様の希望や体調に合わせて職員が作り、栄養バランスも考えております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「花うさぎ千早」は、周辺の開発が進む利便性の良い場所に12年前に開設した、複合型福祉施設の2階に位置し、定員18名のグループホームである。広大な緑地公園が目前に広がり、近隣の保育園児が走り回る姿や地域の方が行き交う様子を眺めることが出来る環境である。入居年数の長い利用者が多く、重度化が進んでいるが、月2回の主治医の往診と緊急時の対応、施設内看護師、訪問看護師との連携で24時間利用者の健康管理を行い、看取りにも取り組んでいる。新型コロナ5類移行に伴い、5年ぶりに秋祭りを開催し、外出レクリエーションとして歌劇レビューの観劇やコスモス見学、歌や読み聞かせのボランティアの来訪等、外部との交流を少しずつ再開して利用者の笑顔に繋げている。1日1日を大切に利用者へ寄り添い、心温まる対応ときめ細やかな気配りに家族の喜びは大きく、利用者や家族と深い信頼関係を築いている、グループホーム「花うさぎ千早」である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境の中、可能な限り自立して暮らせるように支援いたします。地域社会の一員として安心と尊厳のある生活を支援いたします」この理念を全体会議で唱和し皆で共有し実践につなげている。	理念を見やすい場所に掲示し、全体会議の中で唱和して共有に努めている。職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解し、利用者が地域社会の一員として安心と尊厳のある生活を送れるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、施設近くの公園を散歩し地域の一員として日常的に交流している。外部のボランティアが来られ交流している。	新型コロナ5類移行に伴い、5年ぶりに秋祭りを開催し、外出レクリエーションとして歌劇を観に出かけたり、歌や読み聞かせのボランティアの来訪等、少しずつ交流を再開している。利用者職員は、ホーム前の公園に密を避けて出かけ、地域の方と挨拶を交わす等、日常的な交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回の運営推進会議を開催し地域の方に情報発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が2か月に1回あり、施設内であった出来事や行事を報告し、地域の方と意見交換している。	運営推進会議は、家族、町内会会長、公民館館長、元民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月毎に開催している。利用者の状況や取り組みについて報告を行い、参加委員から質問や意見、情報提供を受け、出された意見や情報を検討し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告や変更項目があった時は電話やメールで報告をし協力関係を築いていけるようにしている。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状を報告し、アドバイスや情報交換を行っている。管理者は、行政担当窓口、空き状況や事故等を報告し、疑問点や困難事例を相談する等して協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回以上の内部研修で身体拘束が無いように皆に周知し日々職員間で声掛けし、拘束を行わないケアに取り組んでいます。	施設全体研修で身体拘束について学ぶ機会を設け、各部署に持ち帰り、各運営会議の中で研修を行う等して職員の周知を図っている。禁止行為となる具体的な事例を挙げて検証し、職員同士でチェックしながら注意出来る体制を整え、身体拘束をしない、させない介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回以上研修を行い日々情報共有し、虐待が見過ごされないようにつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い1人1人が理解し活用出来るように努めている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修を学ぶ機会を設け、職員一人ひとりが理解できるように取り組んでいる。また、制度に関する資料やパンフレットを用意して、必要時には利用者や家族に説明している。現在、成年後見制度を活用している利用者が2名いるので、後見人とのやり取りを通して制度の内容の理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前からしっかりと話し、契約時や解約時には細かいところまで説明し納得していただくよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話や意見箱にて要望や意見を伺い運営に反映している。	職員は、利用者の意見や希望を把握し、実現に向けて取り組んでいる。新型コロナ5類移行に伴い、これまで以上に家族とのコミュニケーションを取りながら意見や要望を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。また、「花うさぎ千早だより」の他にも、グループホーム独自のお便りを毎月家族に送付して、利用者の暮らしぶりを伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の時や個別に意見や提案があった時は都度解決し反映している。	月1回管理者会議が終わった後にグループホームの全体会議、その後にユニット会議でカンファレンスを行っている。話し易い雰囲気の中で、職員の意見や要望、気になる事を話し合い、出された案件や勘案事項を管理者会議で取り上げ、代表に相談する等して、ホーム運営や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	限られた職員配置の中、職員同士の声掛けや、働きやすいように管理者が可能な限り意見を組み職場整備に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在、働いている職員を大切に、何かあればすぐに対応し、職員1人1人の能力が発揮出来るよう働く意欲が湧くよう配慮している。	職員休憩室やロッカーを整備し、休憩時間や休暇の確保、職員の事情に応じた勤務体制等、柔軟に配慮して、職員が働きやすい環境作りに取り組んでいる。外部の研修会に職員の経験や習熟度に合わせて参加を促し、資格取得のためのバックアップ体制があり、職員が向上心を持って働くことのできる就労環境を整えている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回のカンファレンスやミニカンファレンスを開き、全職員に人権教育及び啓発活動に取り組んでいる。	利用者の人権を尊重する介護の在り方を、法人内研修や運営会議の中で常に話し合いを行っている。職員は、言葉遣いや対応に注意し、利用者が毎日を安心して過ごすことが出来るように支援している。また、常に理念を振り返り、理念に基づいた介護が出来るかを確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡市等からの研修案内やインターネット等の研修で参加したい外部研修に参加し、学んだことを、内部研修にて皆に伝え共有し、働きながら学んで行く事が出来ている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和4年度から始まった東区内でのグループホーム連絡協議会が開催され、定期的に参加し意見交換している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に情報共有し話し合い、入居後はユマニチュード技法などを取り入れ安心して暮らせるよう、ご本人様に寄り添い安心を与える関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期は、利用者様もご家族様も不安な事が多々あるのでご家族様にはこまめに電話や面会時に状況報告を行い、ご本人様には傾聴し安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の話をしっかりお聞きし、どのようなサービスが必要なのか見極め快適に過ごしていただけるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中で互いに協力し合い、ご自身で出来ることはして頂き、利用者様の意思を尊重し一方的にならないようにしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状態を共有しどのような支援をすればよいかご家族様と相談して決め、出来ることは、ご家族様にお願ひし、ご本人様とご家族様の絆が繋がるよう関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様との会話の中で出てきた内容によって、ご家族様に写真をお願いしたり、電話で馴染みの方とお話したり、会話の中で盛り込んで話し支援している。	新型コロナウイルス移行に伴い面会制限を緩和して、家族や友人、知人の面会をコロナ状況を判断しながら再開し、来訪者がゆっくり寛げるように支援している。馴染みの場所への外出も自粛している状況であるが、状況を判断しながら少しずつ外出支援が出来るように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の関係性を観察し、話しやすい方と同席したり、レクレーションを通じて色々な方とコミュニケーションが取れるよう支援している。1人が良いと言われる方は個別に席を設けリラックス出来る様に配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後はご本人様の書類等は大切に保管し、いつでも経過フォローが出来る体制はとっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向を会話の中で常に把握し、ご本人様の思いを尊重出来る様にご家族様と連携し、その思いを職員と共有しその人らしい生活が出来るよう支援している。	職員は利用者とのコミュニケーションを取りながら、利用者の思いや意向を聴き取り、職員間で情報を共有し日常介護に反映させている。自己選択、自己決定が困難な利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、職員が利用者寄り添い、その表情や仕草から利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートや看護サマリーやご家族様の情報で把握し、何が必要で快適に暮らせるか常に情報共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活リズムを把握し、様子を見ながら臥床を勧めたり、新聞や雑誌を読む方に勧めたり、声掛けしご本人様の意向に沿うようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやその都度何かあればご家族、職員、医療関係者で話し合い、必要であればご家族様やかかりつけ医等に相談しプランを立てている。	職員は、面会時や電話で家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、担当者会議の中で職員間で検討し、利用者本位の介護計画を短期6ヶ月長期1年で作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、その都度介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で申し送りノートや口頭で情報共有し、往診用ノートをご利用者ごとページを作成しており往診時の際すぐにお伝え出来る様にしている。又、カンファレンスを行い介護計画に生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生まれたニーズに対し職員や、ご家族、医療と連携を図り、ニーズに寄り添った柔軟な支援やサービスを提案し取り入れている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加しご利用者様が出来ることがあれば積極的にして頂き楽しんで頂けるよう支援している。定期的に訪問歯科や訪問診療など来られている。地域で支え合うように務めています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様とご家族様の意向を尊重し施設との連携で適切な医療を受けれるよう、また変更される時は相談し常日頃から連絡を密にしている。	入居時に利用者や家族の希望を聴いて主治医を決定している。協力医療機関医師による月2回の往診と法人内看護師、訪問看護師、介護職員の連携で、24時間利用者の健康管理を行い、安心の医療体制が整っている。また、希望があれば、家族が直接主治医と話が出来る機会を設けている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時小さな事で気になることがあれば相談し、訪問看護が入っているときは適切なアドバイスを頂いて、施設の看護師と協力し情報共有を常に行い支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院へ情報共有し、ご家族とも密に連絡を取り意向をお聞きし早期退院を目指しています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、看護師、ご家族と施設で話し合い終末期にどのように過ごすか十分に話し合い、職員が出来る事をしっかり共有し支援している。	契約時に、重度化や終末期に向けた方針について利用者や家族に説明し、希望を聴いている。利用者の重度化が進むと家族と密に話し合い、主治医も交えて今後の方針を確認し、関係者で方針を共有して、希望があればホームでの看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、急変時のマニュアルや事故の際の様にするか初期対応の訓練を行い、皆で確認し実施している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、職員も参加しBCPIに基づいて情報共有している。	非常災害を想定した避難訓練を年2回実施し、すぐ近くの消防署から消防車が到着するまでの間に利用者全員を2階の一時避難場所に避難誘導出来る体制を整えている。地域の防災訓練に職員が参加し、防災協力事業所として登録している。また、災害時に備えて、非常食、飲料水を備蓄している。	他の部署と合同の全体訓練を年2回行っているが、グループホーム独自の訓練(特に夜間想定)の実施を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様1人1人を尊重し、言葉かけに気を付けながらコミュニケーションを行っている。	利用者一人ひとりの尊厳を尊重する介護サービスについて、内部研修や運営会議の中で話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮し、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については管理者が繰り返し職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意向を常にお聞きし、無理のないよう自己決定出来るよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースに合わせ、希望をお聞きし1日のリズムを崩さず過ごして頂くよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と協力し必要な物品を揃え、ご自身で整容出来る方は好きな洋服やお化粧品たりされている。出来ない方は、職員が季節に応じた身だしなみに配慮し支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しくお食事を召し上がって頂けるよう、個々に食事の形態を変え楽しんで沢山食べて頂けるようにしている。食事の前後には台拭き等出来ることを職員と一緒にしている。	栄養バランスやカロリー計算された食材を使用して施設内手作りの料理を提供している。利用者一人ひとりに合わせた形状(ミキサー食、きざみ、普通食)で提供し、楽しい食事が出来るように支援している。外食が出来ない利用者の為に、「ケーキを食べる会」「さつま芋のおやつを食べよう会」「お茶会」等を企画し、食べる事を楽しめるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を各食事ごとに記入し、一日の食事量や水分量を集計し確保出来ているか確認し支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援を行い、口腔状態の確認を行っている。又、訪問歯科の診察より助言を頂き指示に従ってケアしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の行動を観察し、排泄パターンや習慣を把握し支援している。又、オムツやりハビリパンツから布パンツへ移行出来るようにしている。	職員は、利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、声掛けや誘導を行い、重度化しても職員2人体制で排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間は利用者の希望を聴きながら、トイレ誘導を行ったり、ポータブルトイレ、オムツやりハビリパンツ、パットを使い分ける等、利用者一人ひとりに柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄に注意し食事量、水分量を把握している。便秘の時は、かかりつけ医と連携を取り排便コントロールを行っている。他にも適度な運動等も取り入れ予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調を見ながら、本人の意思を尊重し個々に応じた支援を行っている。入浴時お湯の温度も好みの温度にし、気持ちよく入浴出来るようにしている。	利用者の希望や体調に配慮し、週2～3回を基本としている。足浴や清拭、併設事業所の機械浴も取り入れ、利用者が重度化しても入浴出来る環境を整えている。また、入浴は利用者と職員が一对一で会話をしたり、ボディチェックが出来る機会として大切に関わっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく離床してフロアで過ごして頂き、夜間は室温や照明の調整、衣類なども気を付け、不安な事があれば傾聴し安心して眠れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の変更や副作用・用法等は薬局が持って来られた薬情をしっかりと確認し、かかりつけ医にもお薬の情報をお聞きし支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション等季節ごとの行事を計画したり、毎日のラジオ体操等で、日常的な運動をしている。又、個別で散歩に行ったり歌を歌って気分転換を図っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	ご家族と同伴で外出・外泊・通院などでご家族様と過ごす時間を支援している。施設では近くの公園へ散歩に行き地域の方との交流も図れるよう支援している。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら少しずつ外出を再開し、歌劇レビューの観劇やコスモス見学に出かけている。天気の良い日には目の前の公園を散歩して、利用者の気分転換と下肢筋力低下防止に努めている。保育園が近くに2園あり、利用者は、公園で走り回る子ども達を眺めることを楽しみにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、ご家族様管理及び職員側で管理しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で電話を持っている方は、かけ方が分からないときは電話を繋いでいる。常に職員が間に入り電話や手紙等が出来るように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保ち、通る場所には危険な物が無い様配慮している。居室環境はご家族様ご本人様の希望により環境作りをしています。フロアでは季節に合わせた壁画などを飾り季節を感じていただけるよう環境作りに努めています。	ホーム内は音や照明、温度、湿度、換気に配慮し、清掃が行き届いた清潔感のあるゆったりとした共用空間である。交流スペースを中心に、左右対象に各ユニットが位置しており、季節の飾り物や利用者の笑顔の写真を飾り、それぞれが家庭的で利用者が安心して過ごせるように工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々ご利用者様の様子を見させていただき、楽しく過ごせるよう職員が間に入り会話を繋げたり、気さくに話せる方同士は近くの席にし工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様の意向を尊重し安全に過ごして頂けるよう支援している。毎日居室の掃除や換気も行い居心地よく過ごして頂けるようにしている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が長年使い慣れた家具や身の回りの物、仏壇や家族の写真等大切な物を持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、利用者が安心して過ごせるように支援している。また、利用者一人ひとりの状態に合わせて危険のないように家具を配置する等、動線に注意しながら安全面にも配慮して取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活出来るように、環境整備を行いトイレ等分かりやすく表示し、家具の配置などの配慮し危険が無いように支援している。		